

釧根地域将来像検討委員会 第1回委員会論点整理

1. 人口減少に対応した地域社会

(1) 圏域・地域社会のあり方

- ・地域構造を推計し、どこにどれだけ人口を配置して、道路のネットワークやITのネットワークをコストのかからない地域構造にしていくのかという視点が必要である。（大島委員）
- ・既に人口が減少し、人が住まなくなるという地域があることが見えている。それに対して地域としてグラウンドデザインをつくり、対応していくことが必要である。（近藤委員）
- ・人口減少下において、この地域がどうあるべきか厳しい見通しの中で考えていく必要があるが、全て生活圏や各種機能を維持していくことが不可能であるため、「選択と集中」といった視点が欠かせない。（田村委員）
- ・人口減少という経験したことのない時代における持続可能な開発がキーワードになる。言葉が先行していて、実践はこれからの課題である。（小磯委員長）
- ・農業、観光、環境、国際化時代での新しい産業展開、それぞれの取り組みがいろいろなかたちで連携することによって、持続可能な開発を目指したモデルになりうる。（小磯委員長）
- ・生活者の視点から生活者の行動やニーズ等を踏まえ、既存インフラ等をどう活用していくのかが必要である。（田村委員）
- ・新千歳空港から道内各地域に交通インフラとしての道路があり、それに続いて釧路から域内の観光地への、また物流を含めた基本的な道路のインフラがある。釧路、根室管内を含めたエリアでグラウンドデザインしていく必要がある。（宮田委員）



- ・人口減少を見据えた地域のグラウンドデザインの構築が必要
- ・「選択と集中」による地域構造の再構築が必要
- ・生活者のニーズ、視点から既存インフラの活用を図る必要

(2) 人口減少による影響

- ・人口は確かに活動力の基盤であるが、人口が減るということをあまり大変だと言う必要はない。（出村委員）
- ・人口が少ない過疎地は、人材の過疎地ではないか。人がいないのは数ではなく、

あるレベルの人がいなくなっている。（行木委員）

- ・後継者不足の中で、人口減少という問題は農業も避けて通れない。全国からの就農希望者をいかに呼び込むかが課題である。後継者を確保できない場合は、法人化など生産を維持できるシステムを作る必要がある。（石橋委員）
- ・漁業従事者の高齢化や後継者不足のため、地域の水産原料を使い、水産食品を作り、全国に出荷している生産現場が疲弊している。（近藤委員）



- ・人口減少は、人材の過疎化につながる懸念
- ・産業の担い手の減少

（3）地域社会等を支える仕組みづくり

- ・情報インフラや先進的なアイデアなど、釧路・根室地域の各地域が持つ強みを連携して、ユビキタスを利用したシステムの中で何かができるビジネス基盤をつくることが次のステップに必要である。（宮田委員）
- ・人口が少ない過疎地は、人材の過疎地ではないか。人がいないのは数ではなく、あるレベルの人がいなくなっている。（行木委員：再掲）
- ・観光の裾野であるサービス業が北海道の中でも釧路は低いのであれば、サービス業をつくっていく上でも、情報基盤をつくってビジネスをつくっていくことが必要である。（宮田委員）



- ・人口減少に対応した、人材の育成・確保が必要
- ・観光振興や新たなビジネスの創造のために、情報基盤の充実が必要

2．食産業の振興

（1）担い手不足に対応した1次産業の振興

- ・後継者不足の中で、人口減少という問題は農業も避けて通れない。全国からの就農希望者をいかに呼び込むかが課題である。後継者を確保できない場合は、法人化など生産を維持できるシステムを作る必要がある。（石橋委員：再掲）
- ・漁業従事者の高齢化や後継者不足のため、地域の水産原料を使い、水産食品を作り、全国に出荷している生産現場が疲弊している。（近藤委員：再掲）
- ・釧路・根室地域では既に大規模化等も進み、将来的に「生き残れる」可能性のある地域である。農家人口減少下においても持続可能な、酪農を中心とした将来像を描き、実践すべきである。（田村委員）



- ・担い手不足に対応した、法人化など効率的な産業構造の構築が必要

(2) 自然環境等と調和した産業振興

- ・釧路・根室地域の農業は、酪農でしか生きられないが、環境問題、消費者の安全・安心に対する意識の問題も含めれば、日本で唯一残れる酪農地帯と考えている。(石橋委員)
- ・農業は食料生産という最も基本的な経済活動をしているが、それ以外に色々な外部効果を発揮している。代表的なものに、自然環境、景観を美しく保つことがある。美瑛、富良野などでは十分に観光資源になっている。(出村委員)
- ・農業の環境問題は、環境保全よりも環境汚染ということになる。グリーンツーリズム、エコツーリズムが活発になれば、農業の環境問題と観光振興を調和させる仕組みが必要になる。(出村委員)
- ・ふん尿処理や臭気については、酪農が地域の中で産業として生き残っていくための課題であり、対応していかなければ将来的に酪農が残っていけない問題だと受け止めて、今努力している。(石橋委員)



- ・ **自然環境と調和した地域産業の振興が必要**
- ・ **生産活動と景観など環境振興と調和させる仕組みづくりが必要**

3. 観光の振興

(1) 地域特性を活かした観光の振興

- ・ マストツアーを収容できる大きなところ、エコツアーへ重点をおいていくところと、それぞれの地域、まちが一番得意なところに集中して観光をすすめていく必要がある。(辻中委員)
- ・ 地元でなければ見られないというところをエコツアー等で作りだしていくことが、地域でなされなければならない。(辻中委員)
- ・ 観光客や地元の人に地元の美味しい食材を食べてもらうことが観光の基本である。資源はたくさんあり、どう組み合わせていくかが重要になる。(出村委員)
- ・ 国立公園が3箇所この圏内にある。人口は減っていくかもしれないが、国立公園全体が一体とした地域であるということに基づく観光、そこに根付けるような産業をつくっていく以外に、長期的にはないのではないか。(行木委員)
- ・ 農業は食料生産という最も基本的な経済活動をしているが、それ以外に色々な外部効果を発揮している。代表的なものに、自然環境、景観を美しく保つことがある。美瑛、富良野などでは十分に観光資源になっている。(出村委員：再掲)
- ・ 農業の環境問題は、環境保全よりも環境汚染ということになる。グリーンツーリズム、エコツーリズムが活発になれば、農業の環境問題と観光振興を調和させる仕組みが必要になる。(出村委員：再掲)

- ・ 釧路を拠点とする観光客が知床の羅臼でオオワシをみて、雪の中を歩き、釧路へ戻るようなエコツアーは現状ではできない。釧路から根室や知床へのルート、道路の定時性、高速性が必要である。（辻中委員）



- ・ 多様なニーズ、旅行形態に対応した観光振興を目指すべき
- ・ 自然環境と調和し、産業活動などと連携した観光振興を目指すべき
- ・ 地元の安心・安全で質の高い食の提供や観光資源の発掘などによる観光振興が重要
- ・ 観光振興のために道路の定時性、高速性を確保・向上させる必要

（２）国際化等への対応

- ・ 海外観光客が非常に増えている中で、国際化への対応というインフラ整備も非常に重要である。標識も多国語表示して、国際化に対応していくこともこれからは必要になってくる。（近藤委員）
- ・ 海外観光客が増え、またファームステイやアウトドアなどの個別的な要望が増えていく中で、海外観光客や個別旅行に対する情報提供を釧路、根室で整えていく必要がある。（宮田委員）
- ・ 学校教育でも簡単なロシア語、韓国語、中国語などの挨拶、道案内に使えるりというような言葉体験を、教育段階で体験できるような工夫があってよい。（行木委員）



- ・ 海外観光客の増加に対応したインフラ整備や学校教育が重要
- ・ 多様なニーズに応えるための情報提供を図る必要

（３）地域住民等と一体となった観光振興

- ・ エコツーリズムは地域の総合力である。景色がいいだけではだめで、そこに住んでいる人、仕事をしている人、それから産業、文化を全部含めて、そのまちな力を見てもらうのが、エコツーリズムである。（辻中委員）
- ・ 町民でも地元のきれいな景色を知っている人がほとんどいない。地元の人に知ってもらい、地元の人が観光客に情報提供できることが必要だ。また、近隣相互に情報提供できるような連携の力を蓄えていくべきだ。（辻中委員）
- ・ 環境に重点を置き、湿原を守っていきながら、観光振興であり、地域づくりである。自分達で今生活しているものが観光客に喜んでいただけるというところは、生産者たちが十分にわかっていない。（三膳委員）



- ・観光振興を図るためには、環境、景観、住民、産業、文化など地域の総合力を向上させる必要
- ・地域住民や生産者などが地域の魅力を理解し、広域的な連携などにより観光振興を図る必要

4 . 地域・生活環境の充実

(1) 環境と調和した社会の形成

- ・環境に重点を置き、湿原を守っていきながら、観光振興であり、地域づくりである。自分達で今生活しているものが観光客に喜んでいただけるというところは、生産者たちが十分にわかっていない。(三膳委員：再掲)
- ・インフラ整備の関係で、環境保護、保全そして景観を絶対はずしてはいけない。釧路、根室というのは自然との共存、共生する場だということですすめていく必要がある。(辻中委員)



- ・環境保全と連携した観光、地域づくりが重要
- ・環境保全に配慮したインフラ整備が不可欠

(2) 安全・安心な社会の形成

- ・医療と介護の時代だが、医療・介護はあまり産業としては評価されていない。医療や介護は立派な産業であり、しかも生活密着型で暮らしに直結しているし、需要もある。産業で言えば成長だと思う。(行木委員)
- ・釧路・根室地域において、子供、孫の世代に自分達と同じような豊かな生活を引き継いでいくためにどういう地域づくりをすればいいのか、そのための基盤整備はどうあるべきかが求められている。(小磯委員長)



- ・地域・生活に密着した産業が重要
- ・豊かな生活を持続させるための地域づくりが求められている

5 . 東アジア等との関係の強化

- ・釧路・根室地域の酪農の戦略として、本州の需要に応えられる生産・輸送のシステムを作っていく必要がある。(石橋委員)
- ・道東地域から海外に出荷するとき、外航コンテナ船が最も簡単な方法であり、早く荷役することを追求している。外国からはより早く、便数を多く、活きのいいものが要求されているが、まだ応えられていない。(栗林委員)

- ・ 釧路・根室地域が如何に生き、存在意義、価値を高めていくかを考えると、北海道ベースではなく、本州や対東アジアなど海外に釧路・根室地域を売っていくことが、あるべき姿であろう。（栗林委員）
- ・ 東京などを念頭に置いた物流だけでなく、アジア、とりわけ東アジアとの関係や物流を考えるべきである。道内では、石狩港、苫小牧港、釧路港が今後の国際港の「柱」となる。この機能を積極的に活用すべきである。（田村委員）
- ・ 東アジア地域に何をどう売り込むのか、どういったマーケティングが必要なのかといった、ビジネスプランを構築していくべきである。（田村委員）
- ・ この地域は非常に食料自給率が高く、外に食料を出してお金を稼いでいるが、外に品物を出す物流インフラが貧弱である。この状況を改善しないと将来にわたって域外からお金を持ってくることは難しい。（近藤委員）



- ・ 本州、海外の需要に応えられる生産・輸送システムを構築する必要
- ・ 海外市場等で勝負できるビジネスプランを構築する必要
- ・ 輸出を促進させる物流インフラが重要